



浜松市

平成23年度 外部評価資料

資料番号	事業名	所管課
2-7	児童健全育成事業	次世代育成課

事業シート2

課コード: 001101000
 担当組織: 次世代育成課

作成日: 平成23年5月30日
 責任者: 齋藤 誠

基本政策	課	政策	目	事業	款	項	目	事項	款	項	目	事項
計画コード	09	01	0182	01	018202	予算コード	11	06	02	09		

事業名: 児童健全育成事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	人工 (正規職員) (単位:人)	22年度	23年度	比較
	736,390	748,824	12,434		3.2	3.2	0.0
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他
	21,259	263,337	140,950		178,869		144,409

◆事業の目的

児童数が減少する中で、仲間同士や異年齢のふれ合う体験が少なくなっていることから、地域において児童が自主的に遊び、安全に過ごすことのできる居場所づくりを整備する。

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

【放課後児童会運営支援事業】

- ・昼間保護者のいない概ね小1年生～3年生までの児童を対象に、適切な遊びを通して健全な心身の育成を図る。
- ・放課後児童会105箇所、定員4,365人の運営を実施する。

【浜松こども館運営事業】

もの作りや異年齢のこどもたちとの交流により、児童の健全育成を図る。
 指定管理者: 浜松市文化振興財団

【なかよし館・児童館運営事業】

- ・遊びを通して、幼児・児童の健康を増進し、情操を豊かにする。
- ・なかよし館15館(うち12館は業務委託)、児童館4館の運営を行い、地域の子育て環境の向上を図る。

【放課後児童会施設整備事業】

- ・放課後児童会の施設整備を行う。
- ・広沢小放課後児童会(定員40人→100人)、船越小放課後児童会(定員40人→50人)、白脇小放課後児童会(定員50人→100人)を整備、定員120人増し、児童の受け入れ拡大を図っていく。

【児童遊園地支援事業】

自治会で管理している児童遊園地の維持・整備費に対し補助を行う。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

【放課後児童会運営支援事業】・【放課後児童会施設整備事業】

- ・放課後児童会の運営(91箇所、定員3,895人)を行い、仕事と子育ての両立支援が図られた。
- ・地域子育て支援拠点事業の再編により、相生なかよし館など11箇所を児童会への転用により平成23年度から380人定員増し、一層の仕事と子育ての両立支援が図られた。
- ・和田小放課後児童会など4箇所を整備、定員130人増し、児童の受け入れ拡大を図った。

【なかよし館・児童館運営事業】

- ・なかよし館26館、児童館4館を運営し、児童(満18歳に満たない者)に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、又は情操を豊かにするとともに、児童を中心とした地域交流の推進を図った。

開始年度	終了予定年度	事業の性格分類	根拠法令等						
昭和 42 年	年	自治事務	児童福祉法、浜松子ども館条例、浜松市児童館条例、浜松市なかよし館条例						
会計区分	戦略性	マニフェスト	事業の特徴	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働	
一般会計	重点戦略			○	○	○	○		
行革審答申		外部評価	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
		*H20は事業仕分け							

(単位:千円)

		H22	H23	H24計画	H25計画	H26計画	H23～26計
事業費	予算	736,390	748,824	701,949	659,249	680,449	2,790,471
	決算	720,729					0
財源内訳	国・県支出金	179,771	225,446	225,446	225,446	225,446	901,784
	市債	43,400					0
	その他	80,000					0
	一般財源	476,619	523,378	476,503	433,803	455,003	1,888,687
	*一般会計繰入						0
人件費(報酬等)		0	0				0
人件費		25,600	26,380	26,380	26,380	26,380	105,520
内訳	人工(正規)	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	—
	人工(非常勤)						—
	人工(再任用)		0.3	0.3	0.3	0.3	—
年間経費(事業費+人件費)		746,329	775,204	728,329	685,629	706,829	2,895,991

成果指標1		待機児童解消のための開設箇所数					
種類		単位	H22	H23	H24	H25	H26
目標		箇所	90	105	107	109	111
実績		箇所	91				

成果指標2							
種類		単位	H22	H23	H24	H25	H26
目標							
実績							

◆事業の成果(平成22年度末時点での目的の実現状況 ※活動ではなく状態)

【放課後児童会運営支援事業】・【放課後児童会施設整備事業】

- ・放課後児童会(91箇所、定員3,895人)の運営を行い、仕事と子育ての両立支援が図られた。
- ・地域子育て支援拠点事業の再編により、相生なかよし館など11箇所を児童会への転用により380人定員増し、受け入れの拡大を図った。
- ・和田小放課後児童会(定員40人→80人)、曳馬小放課後児童会(定員40人→80人)、籠玉小放課後児童会(定員30人→40人)、新原小(定員0人→40人)を整備、定員130人増し、児童の受け入れ拡大を図った。

【なかよし館・児童館運営事業】

- ・なかよし館26館、児童館4館を運営し、児童(満18歳に満たない者)に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、又は情操を豊かにするとともに、児童を中心とした地域交流の推進を図った。

【浜松子ども館】

年間入館者数 約18.3万人(リトミックなどの子育て支援、こども料理教室、ワークショップ等)

◆評価(平成22年度事業の評価)

(1) 必要性: 継続

(理由)

子どもは、多くの友達と遊ぶことを通じて仲間社会を形成し、社会性や規範意識を発達させていくが、少子化の中で、子どもが自主的に参加し、自由に遊べ、仲間とふれ合える居場所づくりや活動の促進に取り組む必要がある。

(2) 実施主体: 市

(理由)

児童福祉法等により市町村等が実施主体と規定されている。

(3) 選択と集中 集中

(理由)

児童健全育成は、社会全体の責務であり、地域、企業、行政が一体となって推進していくべき施策であり、行政と市民協働により、事業に取り組む必要がある。

(4) 改善: 民間委託

(理由)

民営化すべきは民営化し、コスト削減、サービスの向上に努めている。

今後の方向性 改善

核家族化・地域コミュニティの希薄化が進む中、子ども同士、あるいは保護者同士のふれあいの場の確保は、児童健全育成上必要である。

◆改革・改善(評価を反映して何を見直したか)

(1) これまでに実施した改革・改善(平成23年度予算で反映したものを含む)

【放課後児童会運営支援事業】・【放課後児童会施設整備事業】

・地域子育て支援拠点事業の再編により、相生なかよし館など11箇所を児童会への転用や4箇所の施設整備によりH22より510人の定員を増し、運営を行う。

・地域の実情を考慮し、教育委員会等と連携を図りながら場所の確保に努め、H23は広沢小放課後児童会など3児童会を整備し、定員120人増し、児童の受け入れ拡大を図る。

【なかよし館・児童館運営事業】

・なかよし館は平成19年度から4館づつ民間委託を行い、平成22年度は16館を民間委託で運営している。

【浜松こども館】

指定管理者と毎月定例会を実施し、来館者数増の対策を協議した。年度後半には指定管理者から具体的な対応計画書を提出させ、年度末にかけて実施させた。

(2) 今後の改革・改善計画(いつまでに何をどう見直す)

【放課後児童会運営支援事業】・【放課後児童会施設整備事業】

・女性の就労傾向が一層高まっており、仕事と子育ての両立支援を図る目的から、放課後児童会の待機児童解消へ取り組んでいく。

・地域の実情を考慮し、教育委員会等と連携を図りながら場所の確保に努め、計画的に整備を進めていく。

【なかよし館・児童館運営事業】

・施設を効率的に運営し経費の削減を図るため、なかよし館、児童館を民間委託し、市民サービスの向上を図る。

【浜松こども館】

指定管理者と毎月定例会を実施し、23年度の来館者数の増に向けた対策等を指示していく。

補足シート2-①

	款	項	目	事項	
予算コード	11	06	02	09	05

事業名：放課後児童会運営支援事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	352,146	390,767	38,621	○			○	
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	13,540	80,609			157,399		139,219	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・仕事と子育ての両立支援を図る目的から、放課後児童会105箇所、定員4,365人の運営を実施する。
- ・児童の放課後の居場所作りとして、遊びを通しての自主性、社会性及び創造性などを培う。
- ・待機児童解消のため、地域の実情を考慮し、教育委員会等と連携を図りながら場所の確保に努め、計画的に整備を進めていく。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

- ・近年の経済状況の悪化から、女性の就労傾向が一層高まっており、仕事と子育ての両立支援を図る目的から、放課後児童会の運営を行った(91箇所、定員3,895人)
- ・地域子育て支援拠点事業の再編により、相生なかよし館など11箇所を児童会への転用により380人定員増し、受け入れの拡大を図った。

補足シート2-②

	款	項	目	事項	
予算コード	11	06	02	09	10

事業名：浜松こども館運営事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	105,286	104,111	△ 1,175	○	○			
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	180	86,782			16,305		844	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

主に4つの機能を持ち、事業を展開している。

- 1 遊び体験機能
- 2 もの作り体験機能
- 3 展示体験機能
- 4 子育て支援・交流機能

毎日イベントを開催し、五感を通じた体験をしたり、個性や創造性等を育んだりし、また様々な人々と交流することにより社会性等も身につけていく。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何をを行い、その結果はどうだったか)

児童健全育成と子育て支援の拠点施設として、健全な遊びを提供し、情操を豊かにするなど児童の健全育成が図られた。

平成22年度実績 約18.3万人

補足シート2-③

	款	項	目	事項
予算コード	11	06	02	09 15

事業名： なかよし館・児童館運営事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	119,050	88,610	△ 30,440	○	○			
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
	7,539	78,486	100		54		2,431	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・児童(満18歳に満たない者)に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、又は情操を豊かにするとともに、児童を中心とした地域交流の推進を図る。
- ・なかよし館15館(うち12館は民間委託)、児童館4館の運営を行い、地域の子育て環境の向上を図る。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

- ・児童(満18歳に満たない者)に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、又は情操を豊かにするとともに、児童を中心とした地域交流の推進を図った。
- ・なかよし館26館を運営し、幼児77,682人、児童56,406人、保護者67,355人の計201,443人の利用があった。
- ・児童館4館を運営し、幼児11,954人、児童16,331人、保護者11,892人の計40,177人の利用があった。
- ・子育て支援拠点事業の見直しにより、なかよし館26館のうち、11館を放課後児童会へ転用した。

補足シート2-④

	款	項	目	事項
予算コード	11	06	02	09 20

事業名： 放課後児童会施設整備事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	154,010	158,375	4,365					
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
		17,460	139,850		451		614	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・女性の就労傾向が一層高まっており、仕事と子育ての両立支援を図る目的から、放課後児童会の待機児童解消へ取組んでいく。
- ・地域の実情を考慮し、教育委員会等と連携を図りながら場所の確保に努め、計画的に整備を進めていく。
- ・広沢小放課後児童会(定員40人→100人)、船越小放課後児童会(定員40人→50人)、白脇小放課後児童会(定員50人→100人)を整備、定員120人増し、児童の受け入れ拡大を図っていく。

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうなったか)

- ・地域の実情を考慮し、教育委員会等と連携を図りながら場所の確保に努め、計画的に整備を進めた。
- ・和田小放課後児童会(定員40人→80人)、曳馬小放課後児童会(定員40人→80人)、籠玉小放課後児童会(定員30人→40人)、新原小(定員0人→40人)を整備、定員130人増し、児童の受け入れ拡大を図った。

補足シート2-⑤

	款	項	目	事項
予算コード	11	06	02 09	25

事業名： 児童遊園地支援事業

事業費 (予算) (単位:千円)	22年度	23年度	比較	施設管理	指定管理	受益者負担	補助金	市民協働
	5,898	6,961	1,063	○			○	
23年度 事業費内訳 (単位:千円)	需用費	委託料	工事請負費	公有財産購入費	負担金補助 及び交付金	扶助費	その他	
			1,000		4,660		1,301	

◆事業内容(平成23年度に何をやるか)

- ・児童遊園地(自治会又はその下部組織が設置するもの)の新設・増設・修繕に必要な経費の補助
- ・浜松市立児童遊園の撤去等に伴う対応
- ・浜松市立児童遊園台帳の再整備

◆これまでの取組状況(平成22年度に何を行い、その結果はどうだったか)

- ・補助金の交付により、地域児童に対して安全かつ健全な遊び場を提供することができ、児童の健康増進、健全育成が図られた。
- ・整備費補助金交付 42箇所
- ・整備工事箇所 2箇所

論点シート

事業番号	2-7	事業名	児童健全育成事業
部局	こども家庭部	所管課	次世代育成課
H23 予算	748,824 千円	所管課	改善（民間委託）
H22 予算	736,390 千円	一次評価	
評価対象事業についての論点等			
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童会は市が設置し、指導員の謝礼も市が支払っているが、運営は自治会、学校、保護者などで組織する育成会が行なうこととなっており、市が運営費を助成している。市と育成会の責任や役割があいまいになっていないか ・市内に民設民営の学童保育が2箇所あるが、市の支援はあるか ・法令では放課後健全育成事業は、基準（衛生及び安全が確保された設備を備える等）を満たせば誰でも行なうことができることとなっており、必ず公設である必要はないのではないか、協働の視点からも公設施設を拡大するより、民設民営の事業者に対する支援を拡充した方が効率的、効果的ではないか 			
評価対象事業についての二次評価			
<p>【改善（協働）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童会の運営に対する市と育成会の責任及び役割を明確にすべき ・放課後児童会の運営及び施設整備について、公設以外の協働の仕組みを検討すべき 			